

高校球児はどうあるべきか。 「坊主頭」をテーマに徹底議論

「Play From The Heart ～心の底からのプレー」をスローガンとしている本校野球部では、今年度オフシーズンは、「考える。そして、アウトプットする」ことを重点目標とし、野球だけではなく、日常生活や実社会など、さまざまな角度からテーマを設定し、徹底的に「考える。そして、アウトプットする」ことに取り組んできました。

その一環として、11月には「核のゴミ処理問題とクリーンエネルギーの追求」をテーマに、寿都町に部員全員でフィールドワークに行くなど、高校生として、ひとりの地球市民として、どう考えていくべきか、本当に自分には関係ないことなのか、自分たちには何ができるのか、何をすべきなのかを「考え」、そして考えたことを、実際に「アウトプット」するを行いました。この活動の中から見えてきたことは、「考えないことが一番良くない」ということでした。

その取り組みを踏まえ、自分たちの活動にしっかりと「意味」を持たせることを選手たちは考え始めました。「自由とは何か」「個性の尊重」「ハイレベルな自主性」、これらについて徹底的に「考え」抜き、そしてその結論を「アウトプット」することが、チーム強化に必ずつながるはずだという声が出始めてきました。

12月からは、これまで誰も疑問すら持たなかった「坊主頭」をテーマに設定し、選手間ミーティングが繰り広げられてきました。「坊主頭が持つ意味」「坊主頭の歴史」「高校野球と坊主頭」「坊主頭のメリット・デメリット」「高校球児の坊主頭に対する周りのイメージ」など、さまざまな角度から「坊主頭」について調査し、自分の考えをまとめました。決して、「坊主頭」を廃止したいということではなく、何も考えずに「坊主頭」にしていることが自分たちの問題点であり、自分たちの考えをアウトプットされた「髪型」を考えるべきだというねらいがありました。自分の考えに確証を持たせるために必要な情報は何かを考え、調査する。仲間の考えを聞き、自分の考えと比較することで、より洗練された自分の考えを持つことができる。寿都でのフィールドワークで学んだ、どちら

にもメリット・デメリットがあり、相入れることのない意見が対立したときに、どのように解決していくのかなど、当たり前を「考え」始めたことで、何事も本質を突き詰めて取り組むことの重要さに気づいてきました。まさに、「やらされる」よりも「自発的に取り組む」ことが、どれだけ効果的なのかを選手ひとりひとりが理解し始めたように思います。

オンラインミーティングも含め、多くの時間を費やして出した結論を、齋藤大駆主将の言葉で以下に記載します。大切なのは「形」ではなく、「自分たちの考えを髪型にアウトプットした」ことです。選手たちのこの思いが、本校野球部の新しい伝統なり、「形」ではなく「考え」が脈々と後輩たちへ引き継がれるべき、力強く第一歩を踏み出したいと思います。

引き続き、本校野球部へのご声援をよろしくお願い致します。

【齋藤大駆主将より】

本校野球部はこれまで、髪形に関して特に決まりはありませんでしたが、選手達は当たり前のように皆、坊主頭にしてきました。しかし今回、選手間の話し合いにより今年度から**髪型を自由**とすることとしました。今冬のテーマである「自主性」、「アウトプット」のもと、12月から髪型について考え、アウトプットし、全員で意見を共有し、全員が納得しての結果となっています。髪型についてのルールは一切設けていませんが、選手自身が校則の範囲内でふさわしい髪型を考えるという自主的な形となっています。今回の話し合いの中で、互いの価値観が違うことで意見が対立し、悩む場面も多々ありましたが、それも含めて相手の気持ちを汲み取ることができるようになったと思います。また、私たちは「甲子園で校歌を歌う」ことが一番の目標であることを再確認できました。

髪型を自由にすることで、周囲の方々からの見られ方が変わると思いますが、それも踏まえた上でこうした結果にしました。私たちはこの決断に胸を張って堂々としていきたいです。これからも応援よろしくお願いします。

2022/3/19